

ばいつめた麦飯をおいしそうにたべていた。食べ終わった貞蔵はいった。

「早く飯食って水あびねえか。」

「このつつみすりばちだぞ。」

「何だ、おっかねえのか。」

「めし食ったばかりだし。」

「いいよ。おれひとりであびっからみてる。」

彼は泳ぎつ、もぐりつ得意気にふるまった。

岸の六人もはじめはみていたが、そのうち木かげで昼寝したり、話し合ったりしていた。すると、

「めんめんするわい、アッハッハハ。」

「めんめんするわい、アッハッハハ。」

と大声をたてた。

もともとひょうきんな貞蔵、またはじまったなと思っているうち浮かんでこなくなった。

これは大変と思ったが、この深いつつみ、誰も助けようとしないう。しかしこのままにおくわけにはいかない。一番おとなしい嘉兵衛がいった。